

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171500079
法人名	株式会社 光樹
事業所名	グループホーム 光樹の杜
訪問調査日	平成20年3月21日
評価確定日	平成20年5月21日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171500079
法人名	株式会社 光樹
事業所名	グループホーム 光樹の杜
所在地	佐賀県西松浦郡有田町戸杓丙433-1 (電話) 0955-45-7220

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年5月21日

## 【情報提供票より】(平成20年3月7日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	6 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 13 人

## (2) 建物概要

建物構造	耐火建築木造造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

## (4) 利用者の概要(3月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	12 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	77 歳	最高	101 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	有田共立病院、馬渡クリニック、高原医院、池上歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有田町の中心地から車で5分ほどの高台に立っており、ホームは料亭の跡地利用でおもむきある庭を所有し、静かで落ち着いた環境である。スタッフは看護師・介護支援専門員・調理専門員・事務専任などを配置し、利用者の様々なニーズに柔軟に対応している。ターミナルケアへの取り組み実績もあり、本人が主体となってその人らしい生活ができるよう一人ひとりの状態や思いに配慮した支援に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題となった広報誌の内容充実については、写真を多く取り入れたり発行回数を増やすなどの取り組みが図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対する職員の関心が深まってきており、今後は全ての職員が自己評価に取り組み、評価結果や改善計画の点検を計画的、継続的に実施するなど評価の一連の過程を通じた、評価の活用の充実が期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在はホームのことを伝え知っていただくことが中心となっているが、これからは地域のニーズや評価で明らかになった課題についても会議で報告し、改善経過のモニター役となってもらうなど双方向の会議となるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等が職員に気軽に意見や苦情を伝えられるようなアットホームな関係づくりに努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担い事業所と地域の人々が支えあうような双方向関係の更なる充実が期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者が地域で必要とされるホームを目指して開設し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることが出来るようチーム一体となって取り組んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付くところに掲示し、毎日唱和することから始めている。管理者は日常その時々で指導しながら、実践の中で気付いたことなど確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時より自治会に加入し、回覧板のやり取りで地域行事の情報を知り、祭りや清掃活動に参加している。老人会にも加入して、地域での普通の生活を目指している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることで現状に満足することなく、サービスの質の向上を目指して取り組んでいるが、評価のねらいや活用方法を全職員が理解し取り組むまでには至っていない。	○	評価をより効果的かつ実りあるものにするためにも、全職員が評価のねらいや活用方法を理解し、評価の一連の過程を全員で取り組む事が期待される。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族代表・町健康福祉課・保健師・社協・民生委員・地域代表・管理者が参加し、運営についての報告と行政からの情報や要望などの意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役員を含む運営者や管理者が全員地域の出身で行政とも繋がりが深い。事業者連絡会議などにも積極的に参加し、事故や感染症など色々な情報を得たり指導を受けたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の写真やホームの機関誌を家族に送付している。遠くて面会に来られない家族の方には電話連絡している。金銭管理は毎月領収書と一緒に預かり金の残高を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族が意見などを話しやすい雰囲気づくりに心がけ、職員が声かけしている。家族からの意見は、すぐ職員間で話し合い、対応をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者も少ないがユニット間の異動は極力控え、ターミナルケアなどで特別な場合のみ異動がある。利用者へ退職を伝える時は、状態を考え時期などを配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門職による不定期の研修会を行っている。また講習会等への参加を促し、伝達の間を設けている。必要に応じてその場で直ぐ指導したり、体験するなどのトレーニングを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内のホームとは密接な関係が出来、交流している。また佐世保市とも近く、相互交流し、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に日中の体験入所や見学を実施し、食事や入浴も体験できる。ゆっくり時間を掛けて馴染むことが出来、職員との関係にも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リビングで過ごしている時間は出来るだけ会話をし、生活歴や昔話で話題を共有して、利用者をより知る努力を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や言葉の端々から、意向を受け止めるよう努めている。出かけた希望や食べたいものがあるれば、一緒に出かけ好きな物を買ったり食べたりしている。本人からなかなか要望が出ない場合は、家族の方に情報を提供して貰ったりもしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を踏まえ、職員全員で検討し作成している。職員一人ひとりが気付いたことは日誌に記録し、利用者の状態を把握して取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の見直しや、状態の変化により見直しを行っている。ミーティングやユニット会議などで情報や意見を出し合い、確認しながら柔軟な対応を行っている。	○	本人および家族の状況は刻々と変化しており、介護計画の見直し時においては、本人や家族等からの新たな要望や状況の変化が最大限反映されたものとなるよう、家族や関係者が話し合える機会作りなどの一層の充実を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	幼稚園児がホームの日本庭園に遠足に訪れることもある。地域の方の介護相談を受けたり、臨時的に訪問して入浴介助が出来る体制を整備するなどし、地域との関係づくりを図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回協力機関に往診をして貰っている。利用者の希望の医療機関への受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては実際行った事例もあり、出来る限りの受け入れをする方針である。家族などと話し合いながら、状態に合わせて対応する事を職員も理解している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の人格を傷つけたりする事のないよう言葉掛けや対応に配慮している。個人記録などは、他人の目に触れないよう管理されている。金銭管理も決められた職員で対応し、情報の管理に気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の要望に応えられるよう職員間で確認されている。個人的に好きな物を食べに出かけたり、タバコなども他の利用者に配慮しながら決められた場所で喫煙できる。食事時間も全員が合わせることでなく、利用者のペースでゆっくり摂ることが出来る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫したものが食卓に並んだり、利用者の声がメニューに反映されている。時には下ごしらえを手伝ったり、後片づけに参加しながら時間にとらわれない支援が行われている。行事食の時はお酒が振る舞われることもあり、賑わう場面もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望で時間や入る順番も対応している。強制することなく、入りたくなる時間まで待つ配慮をしている。入りたくないときは足湯などで楽しんで貰ったり、定期的に入浴剤を変えたりしながら誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者を知ることから始め生活歴に合わせて役割を持ち、生きる喜び存在価値を感じてもらえるよう支援を行っている。行事の時、お誂を披露して貰ったり、書道をされた方には字を書く場面作りをして力を発揮して貰っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの敷地内を自由に散歩したり、近隣を職員と散歩したりしている。1ヶ月に一度は全員が車で出かけた時、日用品の買い物にも希望で同行している。日常的に季候の良いときには、テラスで過ごす事もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、近隣の民家に協力を得ながら、施錠しないケアを行っている。センサーを設置し、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署から指導点検を受け、避難体験が出来る機会を設けている。非常通報システムなどで近隣から避難協力を得る体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事専門員を配置し、量や栄養バランスなど管理している。季節によりスポーツ飲料なども利用し、水分補給には配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の装飾などは奇抜なものは避けて、穏やかな色を使うなど配慮している。リビングはくつろげる場になるよう、テレビの音量なども気配りされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が本人の使い勝手を考え、家具などを持ち込み整理されている。利用者の状態に合わせて動きやすく配置され、写真などが飾られたり洋服が掛けられたりそれぞれの個性ある居室となっている。		